

子どもの笑顔とともに

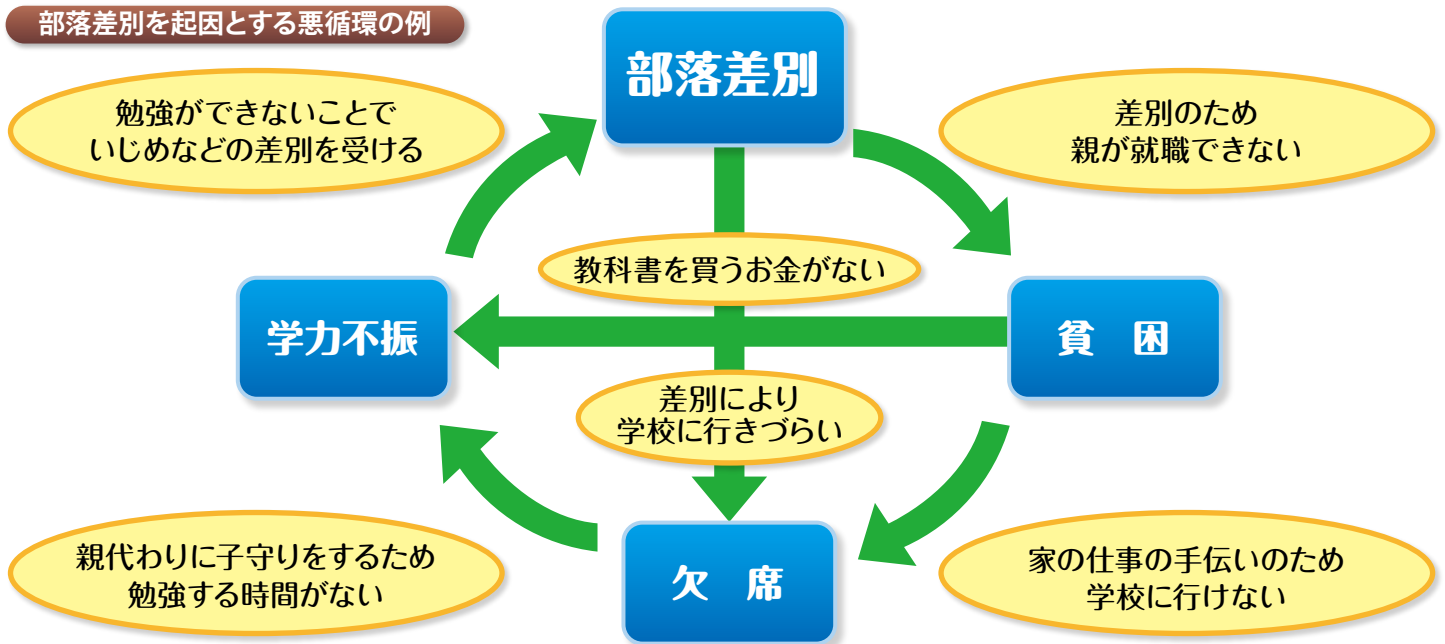
— 同和教育から考えてみよう、だれもが幸せになれる方法を —

香川県教育委員会

1. 同和教育のはじまり

「きょうも机にあの子がいない」これは、戦後の1950(昭和25)年に長欠・不就学対策として全国で初めて高知県に配置された福祉教員の記録から生まれた言葉です。当時、部落差別が原因で学校へ行きたくても行けない子どもたちがいたのです。

部落差別を起因とする悪循環の例



教職員が 家庭訪問によって子どもの実態に気づく
長欠、未就学の子どもを憂う

同和教育のはじまり

同和教育 = 社会の中に根強く残っている不条理な部落差別をなくし、すべての人の人権が尊重されることを中心的課題として行う教育

これまでの同和教育の成果の例

教科書の無償化

上記高知県の親や教職員らが、憲法に保障されている義務教育の無償を訴える運動を展開し、それがきっかけとなり全国の小・中学生の教科書が無償になりました。

悪循環を断ち切ろうとする力

学校に通って学力をつけることで、差別に抗う力を身につけるとともに、貧困から抜け出していこうとする意識や意欲を高めました。

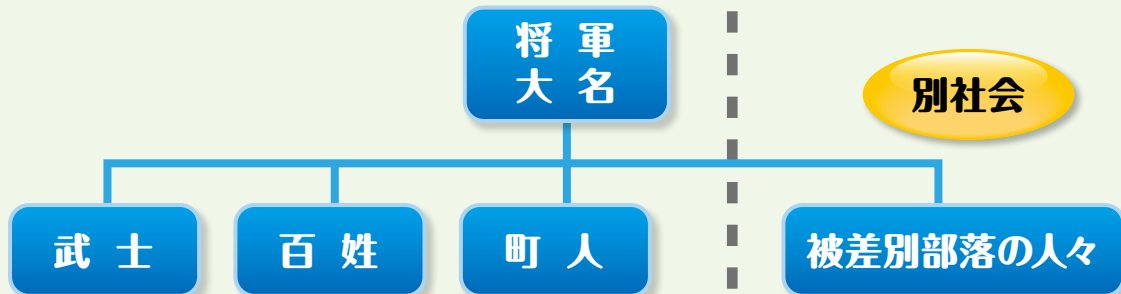
2. 部落差別

部落差別とは

特定の地域出身であることやそこに住んでいることを理由に結婚を反対されたり、就職や日常生活の上で差別を受けたりするという重大な社会問題です。これは歴史の中で形成された我が国固有の人権問題であり、現在も残っている差別です。

日本の歴史を振り返ってみましょう

江戸時代の身分制度



※被差別部落の人々…百姓や町人とは別に身分上厳しく差別されてきた人々

当時の人々は、身分によって固有の「職業」を行うとともに、領主への「役」が課せられました。役を務めることは社会的分業を果たすことであり、それぞれの身分は、社会を成り立たせるためになくしてはならないものでした。被差別部落の人々も同様でした。

しかし、役の内容の特異性から被差別部落の人々は武士や百姓、町人とは別社会の存在として見られました。分け隔てて暮らすことや一緒に食事をしないなど日常的な付き合いを拒まれていました。

最近では…

江戸時代が終わり、身分制度はなくなりましたが、分け隔てて暮らすことが当たり前だという人々の意識が変わることはなく、被差別の立場が固定化され差別が現在まで続いています。

- 結婚や就職の際の身元調査
- インターネット上の不当な書き込み 等

平成28年に部落差別の解消に向けた新たな法律ができました

「部落差別の解消の推進に関する法律」

- 現在もなお部落差別が存在する（第一条）
- 部落差別は許されないもの、解消すべき重要な課題である（第一条）
- 国や地方公共団体は必要な教育や啓発を行う（第五条）

3. だれもが幸せになれるには

現在の私たちの生活を振り返ってみましょう

生活の中で、次のようなことを気にされていませんか？

- 葬式から帰ってくると家に入る前に清め塩を振りかける。
- 結婚式の日は大安の日を選ぶ。
- 夜に爪を切ると親の死に目に会えない。
- 夜に新しい靴をおろすと縁起が悪い。
- 黒猫が横切ると悪いことがある。
- カラスが鳴くと人が死ぬ。

など



このような習わしや言い伝えなどを見直そうとする動きもあるみたいだって知ってる？

どうして？



昔から言われていることやみんながしていることを、同じようにしていくことが、差別につながることもあるからだよ。

なんで？



相手が傷つくことでも、身近な人が言うと思ってしまうことがあったんだよ。実はそれが、部落差別をはじめ様々な差別が続く一因になっているんだよ。

信じ込む前に、相手を傷つけることがないかを考えないといけないね。



ただ、習わしや言い伝えなどは、これまで大事にされてきたことなので、すべてがダメだと言ってるわけではないんだよ。

このような決めつけや発言をしていませんか？

仕事は男性、
家事や育児は
女性がするもの



外国人なのに
日本語が
上手ですね。



長く日本に
住んでいるんだけどな。



アンコンシャス・バイアス

「無意識の思い込み・偏見」と訳されます。これまでの自分の経験や見聞きしたことから、相手のことを考えずに自分なりに解釈してしまうことを意味します。

マイクロアグレッション

「小さな攻撃」と訳されます。表現する側が無理解・無関心であるために受け取る側が否定・侮辱・疎外されたと感じるような言動です。

差別のない社会を築くには、相手を傷つけていないかどうかを常に考えて自分の言動に気をつけることも大切です

4. 保護者のみなさまへ

右の子のように思う人も多いのではないのでしょうか？
一歩が出るには、何が必要でしょう。

点字ブロックの上に
自転車がある！
早く自転車を移動さ
せないで大変だ！



だれもが幸せになるための3ステップ

例:学校での視覚障害者理解の授業では

知ろう

- 身の回りの様々なことに関心を持って調べよう。
- デマやうわさでないかを確認しましょう。



でも、知識を持つだけでは
まだまだです。

- 視覚障害者のことを理解する。
- 白杖・点字などについて知る。



体験しよう

- 積極的に他者に関わって体験を積み重ね、相手の気持ちを正しく想像しましょう。



でも、体験するだけでは
まだです。

- アイマスク体験で、恐怖感や困り感を体験する。
- 視覚障害者の生き方に共感する。



行動しよう

- 言動に移す前に、自分がされた場合にどう感じるのかを考えよう。
- そのあなたの小さな言動が、差別のない社会へと変えていく力になるはずです。



知識と体験が重なることで、
行動へとつながります。

- 点字ブロックの上に物が置いてあるのを見つくと、視覚障害者にとって危険であると感じ、その物を取り除こうとする。



未来ある子どもたちに笑顔があふれるように、
今自分ができるところを見つけて行動していきましょう

あなたの身近にある小さなことから始めてみませんか…

だれもが幸せになれる世の中をめざして